

伊予市に索道が通っていた！

ロシア兵捕虜、扶桑木に続き、古き時代の伊予市を紹介しましょう。

かつて伊予市に鉱石を運ぶ架空索道があったのをご存知ですか。

明治42年、大瀬(現内子町)鉱山から出淵(中山)まで索道が架設され銅鉱石が運ばれていました。その先は馬車で郡中まで運んでいたのです。大正2年に当時の伊予鉄道社長により伊予索道会社が設立され、翌年には出淵から中山、日浦(佐礼谷)、大平停車場を経て郡中駅まで伸延されました。普通荷物も扱っていたのです。東京のジェームス・モリソン商会によりイギリスのロンドンロープウエーK.Kが受注しました。当時のお金で20万円、工事には6か月を要したそうです。郡中駅には鉱石倉が設置され、引込み線が敷かれ、四坂島などの精錬所へ運ばれていたといひますか

ら、さぞ賑わっていたことでしょう。タイムマシンで覗いてみたいものです。



伊予鉄道と連絡した郡中駅



中山停車場

大瀬鉱山の好況で昼夜兼行で稼動していましたが、わずか6年後には休山に。大瀬～日浦間は廃線となり、新たに広田鉱山～日浦間が開通しましたが、昭和恐慌のあおりを受けて昭和9年の休山(後に再鉱)に伴い廃線に。伊予索道は開業から16年で使命を終えました。

時は容赦なく過ぎていきますが、過去を知ることが未来を知ること。未来は過去へとつながっているのです。(N.T)



いよじよのしゃべり場
5月22日(水)です☆
きてね～♪



適応指導教室「はばたき」 「一段ずつ階段を上る大切さ」

新学期がスタートして1か月が過ぎました。新しい生活への緊張から疲れが出て、この時期は心身の不調を訴える子ども出てきます。

子どもたちの中には、新学期になって「さあ頑張ろう」と、自分の夢に向かって調子よく階段を2段、3段飛ばしで突っ走っていくようなときがあります。しかし、そんなときはスピードを緩め、一段ずつ確認しながら上ることができる慎重さを身に付けてほしいと思います。

人生に近道はありません。こつこつと努力を続け、自分の足で一步ずつ確認しながら上る、そんな人になってほしいと思います。1年の間にはつらいことや苦しいことも多くあると思います。そんなときは心と体を休め、元気を取り戻したら、また、一段一段階段を上ってほしいと思います。

お子様の不登校や適応指導教室に関する相談の連絡先 TEL (089-989-5022)



かまぼこ板でつながる人と人

昨年、山里の小さな美術館「ギャラリーしろかわ」に出かけた。丁度、第24回全国「かまぼこ板の絵」展覧会の最終日。陽は西に傾き午後3時を回っていたが、来館者は途切れることもなかった。展覧会のテーマは、「いつもそばにここが私のふるさと」。約、縦6cm、横12cmのかまぼこ板。昨年は9,015点の応募があり、伊予市からは280点と表示されていた。

展示作品を見て回る。幼児から大人まで多くの作品が所狭しと展示されていた。その展示方法も工夫の跡が見られる。油彩、水彩、クレパス、墨など画材も自由で、その小さな空間に個人の想いが表現されている。思わず立ち止まり、見入ってしまう作品もあった。中には「俳句とかまぼこ絵」や「絵手紙とかまぼこ絵」のコラボ等もあり、展示方法にも工夫が見られた。また、館内の入口には、東日本大震災以降、交流を続けている岩手県宮古市の田老第三小学校19人から激励のメッセージが寄せられていた。地震発生前に投函した児童の作品が、大混乱をくぐりぬけ、8日後に届いたのが交流のきっかけとなったようだ。

最優秀作品は、「無垢な視線」。我が子を描いた作品で、正面と斜めからの表情を描いた2枚。けがれのない幼い子の瞳が、観覧者の足を止める。親の温かい愛情が伝わってくる作品である。作品ひとつひとつが丁寧に扱われていることと人と人との交流が大切にされている思いが伝わり、心の中が温かさで満たされた日となった。

きっと今年も心温まる作品が展示されることでしょう。(K・H)



《センター長のつぶやき》 負けるな

この春休み、前の職場（砥部町山村留学センター）でかかわった子どもたちが、中学入学の報告に来てくれた。県内はもちろん、茨城や広島からもわざわざ来てくれ、懐かしい顔を見せてくれた。

先日の伊予市の中学校入学式でも、当時の小学5年生が、立派な態度で入学式に臨んでいた。子どもの成長を見ることができるのは、とても幸せなことである。

こんな記事を読んだことがある「生物学の観点からいえば、人間として生まれる確立は当選金額1億円の宝くじを100万回連続で当てるよりもまれである」と。

東北のボランティアに参加させていただいてすぐに港南中の子どもたちに伝えたことは「命があること 生きていること それ自体が素晴らしいことなんだ」であった。

進学や進級など、新しい環境に出発するする子どもたちには「生きている」。そのことに感謝し、人生を楽しんでほしい。そして、これから出会う人たちとも仲良くなって、幸せな時間を過ごしてほしい。

あなたの人生の主演はあなたです。最高に幸せな人生を演じきってください。負けるな。(DOI G)



発達支援巡回相談

『子どもの言葉が出てこない時・・・』

成長には様々なステップがあり、一定の順序があります。言葉をしゃべるようになるには土台となるものがが必要です。まずは、五感の発達を促しましょう。絵本の読み聞かせや歌を歌うこと。色々な味や匂いに触れさせ、もぐもぐよく噛んで食べさせるなど。口や舌に刺激が伝わり、言葉の発達へつながっていきます。手や足を動かして、筋肉の伸び縮みや関節の動きを感じる感覚も味あわせましょう。子どもの目の高さで子どもの目を見て、優しく語り掛けることも大切です。繰り返し素敵な言葉を聞かせましょう。親子の信頼関係も深まり、コミュニケーションが育っていくことでしょう。

どの子も、愛に溢れた言葉の中で育ちますように。(K)

伊予市子ども総合センター

伊予市総合保健福祉センター2階

伊予市尾崎3-1 ☎989-6226

携帯 080-2974-4580

